

■米国：地熱発電、政府からの助成により今後5年間で急速に拡大する見通し

米国では政府からの助成と投資家からの関心の高まりにより、地熱発電が再生可能エネルギー開発の重要な役割を占めるようになってきている。地熱発電協会のゲイウェル専務理事は「現在の風力発電に見られる目覚ましい成長が、今後5年のうちに地熱発電にも見られるだろう。現在の地熱発電は成長に向けた分岐点に差しかかっている」とコメントしている。地熱発電は、2008年に5万kW、2009年には17.8万kWが開発され、現在米国内で144のプロジェクトが開発中である。しかし、地熱開発には依然として固有のリスクが存在しているのも事実である。ゲイウェル氏によると「最も大きなリスクは、どこに地熱資源が存在しているのかではなく、その場所にどの程度の規模の資源が保有されているのかという点である。1万kWなのか、10万kWなのか、その不確かさが大きな問題となる」とのことである。一方、地熱発電が他の再生可能エネルギーと比べて優位な点として2つ挙げられている。一つは立地スペースの問題である。地熱発電は太陽光発電に比べると約半分、風力発電に比べると約1/10の面積で同じ規模の設備開発が可能である。もう一つは、帯水層からくみ上げられた水をリサイクルして使用する技術が地熱発電ですでに確立されている点である。西部州では発電のための水確保が大きな問題となることから、地熱開発に水問題が伴わないことを優位な点としている。